

1人1台端末の利活用に係る計画について

1. 1人1台端末をはじめとするICT環境によって実現を目指す姿

中央教育審議会答申「令和の日本型学校教育の構築を目指して」（令和3年1月）において、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させること、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が求められている。

本市では、「たくましく学んで育つたまのっ子の育成」を教育目標とし、学力向上とキャリア教育を柱に、教育活動の充実に努めている。一人一台端末は、これらの学びを支える子ども達の学びにも非常に効果的なツールと捉えている。

上記を踏まえ、目指す学びの姿を次のとおりとする。

○児童生徒が「文具」の一つとして、一人一台端末を活用する

- ・教師が一つ一つ指示をするのではなく、子ども達が主体的に使い方を選択し、自由に行える環境構成とする。
- ・危険性を理解した上で正しく活用するため、義務教育段階9年間を通して、情報活用能力を系統的に指導する。

○一人一台端末の有効活用により、個別最適化された学びを実現する。

- ・1人1台端末を活用し、個々の興味関心や学習進度、特性などにあった学習の充実を図る。

○一人一台端末による、学校間連携を促進する。

- ・市内の学校間で児童生徒の学びを共有し、オンライン交流等で学びの深化を図る。

2 GIGA第1期の総括

玉野市では、全国学力・学習状況調査 生徒質問調査「1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」の項目における「ほぼ毎日」の回答について、令和6(2024)年度の目標値を100%に設定して取り組んできた。

令和6年度の玉野市立小学校は40%、中学校は72%で、全国及び県全体よりも高い数値であるが、更に生徒が日常的に端末を活用して学びを深めるため、「3 1人1台端末の利活用方針」に基づき、授業改善を推進する。

また、日本教育工学協会における学校情報化優良校認定の取得目標を100%に設定して取り組んでおり、令和6年度末の取得率は90%となっている。目標には達していないものの、非常に高い取得率を実現している。

更に児童生徒が日常的に端末を活用して学びを深めるため、「3 1人1台端末の利活用方針」に基づき、授業改善を推進する。

3 1人1台端末の利活用方策

玉野市では、GIGA第2期における1人1台端末の更新を令和7年度に予定している。引き続き1人1台端末環境を維持することを前提とし、以下のように利活用を推進していく。

①一人一台端末を基盤とした、学力向上とキャリア教育の推進

一人一台端末を有効活用し、授業や家庭学習での授業支援ツールやAI型デジタル学習ドリルを活用し、個別最適化された学びを実現に向けた授業改善を実施する。

また、オンライン環境等を有効に活用し、情報収集や情報発信を行う授業の充実を目指す。

②学校情報化優良校認定の推進

令和8年度までに、市内全小中高等学校の認定を目指す。

③1人1台端末の利活用にあたり、次のとおり目標を設定し、教育DXを推進する。

項目	指標	現状値 (R6)	目標値(R8)
個別最適・協働的な学びの充実	児童生徒が自分で調べる場面において1人1台端末を週3回以上使用させている学校の率	小 93.8% 中 96.4%	100%
	児童生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面において1人1台端末を週3回以上使用させている学校の率	小 80.0% 中 83.4%	80%以上
	児童生徒同士がやりとりする場面において1人1台端末を週3回以上使用させている学校の率	小 87.6% 中 89.6%	80%以上
	児童生徒が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面において1人1台端末を週3回以上使用させている学校の率	小 87.0% 中 84.6%	80%以上
学びの保障	希望する不登校児童生徒へ端末を活用した授業への参加・視聴の機会を提供している学校の率	実施可能	100%

	希望する児童生徒への端末を活用した教育相談を実施している学校の率	実施可能	100%
	外国人児童生徒に対する学習活動等の支援に端末を活用している学校の率	実施可能	100%
	障害のある児童生徒や病気療養児等、特別な支援を要する児童生徒の実態等に応じて端末を活用した支援を実施している学校の率	実施可能	100%

以上